

# 報告

## 平成29年度北海道医療・福祉 関係職能団体等意見交換会

常任理事・医療関連事業部長 藤井 美穂

本意見交換会は、毎年、医療ならびに福祉関係に関わる職能団体の方々にそれぞれの立場から話題提供いただき、意見交換をすることを目的に開催している。

平成29年度は第1回目を8月18日（金）、第2回目を2月2日（金）に開催したので、報告する。



8月18日は33団体62名にご参集いただいた。

長瀬会長の挨拶後、『北海道臨床工学技士会・日本超音波検査学会北海道地方会・北海道消化器内視鏡技師会』のグループから、日本超音波検査学会北海道地方会の林会員と西田理事から「超音波検査士としての取組みとその活動」をメインテーマとして話題提供があった。



### ■話題提供

#### (1)「超音波 & 素晴らしき仲間とともに40年 —JSS北海道のこと始め—」

日本超音波検査学会北海道地方会：林会員

日本超音波検査学会の北海道地区会が昭和52年5月に発足。順天堂大学と賀井敏夫名誉教授が検査スタッフの育成を目的に、札幌医科大学の福田守道名誉教授に声を掛けたのが全ての始まりで、職種に限らず超音波に興味のある人全てを集めた稀な集ま

りであった。

これまでに、昭和62年・平成10年・同24年の3回、日本超音波検査研究会全国研究発表会を開催。平成6年には第7回WFUMB（世界超音波医学会）、第4回WFS（世界超音波検査士会議）を開催するまでになった。

機械的な進歩はあっても人間でなければできないことはまだあり、それらを支える団体でありたい。



林会員

西田理事

#### (2)「日本超音波検査学会と北海道超音波研究会 の最近の活動」

日本超音波検査学会北海道地方会：西田理事

日本超音波検査学会の設立目的は、超音波検査学に関する学理および応用の研究についての発表、知識の交換、情報の提供を行い、超音波医学と関連学問領域の進歩普及、学術の発展に寄与することである。

会員は平成29年7月5日時点で23,095人おり、臨床検査技師が一番多く16,783人。北海道の会員は全体の5%となっている。

認定資格の領域として日本超音波医学会という医師の学会で認定しており、その認定のための受験資格は、看護師・准看護師・臨床検査技師・診療放射線技師が3年以上継続して日本超音波医学会または日本超音波検査学会の会員で、超音波専門医もしくは超音波指導検査士による推薦を受ける必要がある。この超音波指導検査士は、技師を指導する超音波技師をつくらうということで定められ、日本では私を含め13名しかいない。

平成24年6月には「協調と分化」をメインテーマとして第37回日本超音波検査学会を開催した。テーマに沿った試みとして、主なセッションは技師と医師の二人座長制、シンポジウムやパネルディスカッションには他職種の方々の多用を試み、1,580人の参加者を得た。

北海道超音波検査研究会については、最近の活動主体が日本超音波検査研究会であることから、おとなしめの活動を細々と続けている。ここ数年で一番の活動は、平成19年に「超音波で広げよう、この探究心」をメインテーマとした30周年記念学術集会で、最近では超音波検査士セミナーを年1回開催している。

今後とも超音波検査を通して診療に貢献すべく頑張っていきたい。



2月2日は、32団体58名にご参集いただいた。

第2回目は、『北海道精神保健福祉士協会・北海道医療ソーシャルワーカー協会・北海道臨床心理士会』のグループから北海道臨床心理士会の河合会長から話題提供があった。



### ■話題提供

#### 「臨床心理士としての活動について」

北海道臨床心理士会：河合会長

臨床心理士は民間の資格で、専門業務（自称）として「心理査定」「心理面接」「地域援助」「調査・研究」の4本柱をもって活動している。教育関連の活動として、小・中・高校で児童・生徒を対象としたカウンセリング、保護者・教職員を対象のコンサルテーションがあるほか、地域で何か問題が発生した際に行う緊急支援がある。この緊急支援はスクールカウンセラーが対応することもあるが、外部の臨床心理士がチームを組んで当たることもある。



会としての活動は、会員がそれぞれの職場で仕事をしており難しい面もあるが、その中で、コンスタントに行っているのが、災害時の被災者支援である。

心理士の国家資格化については、50数年前より要望している。平成23年に臨床心理職国家資格推進連絡協議会・医療心理師国家資格制度推進協議会・日本心理学諸学会連合による『心理師（仮称）』の国家資格制度創設の三団体要望書が公表され、平成29年に公認心理師法が公布と相成った。

公認心理師が行う業務は、心理学に関する専門的知識および技術があることが前提で、心理に関する支援を要する者に対し、心理状態を観察し、その結果を分析することや、相談に応じ、助言・指導その他の援助を行うこと。心の健康に関する知識の普及を図るための教育および情報の提供を行うことなどがある。



話題提供の後、各団体からは現状や問題点などについてさまざまな意見が出され、活発な意見交換が行われた。

次回の平成30年度には、第1回目を『北海道歯科医師会・北海道歯科技工士会・北海道歯科衛生士会』、第2回を『北海道医師会・北海道診療情報管理研究会・日本医師事務作業補助研究会北海道支部』のグループが担当で話題提供を行うこととしている。



懇親会風景

### 北海道医師会 育児サポート事業のご案内

# 病児・病後児の預り時に、 ぜひご利用ください！

北海道医師会が利用料金の一部を負担する、会員限定の利用券での支払いが可能です。



子育て中の医師の仕事と家庭を両立するためのサポートです。

お問合せ先

一般社団法人 北海道医師会 事業第三課

〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目 FAX 011-231-7272

TEL 011-231-7300 E-mail josei-dr-shien@m.douji.jp

